

インクルージョンの推進



社会福祉法人麦の子会
北川聡子

社会福祉法人麦の子会概要

☆子ども発達支援部門〈定員〉 2021年4月現在

・むぎのこ児童発達支援センター47名(64名)

むぎのこ保育所等訪問支援事業・居宅訪問型児童発達支援むぎのこ

・みかほ整肢園(医療型児童発達支援センター) 40名

保育所等支援事業・居宅訪問型児童発達支援・放課後等デイサービス

・児童発達支援事業(8事業所)

むぎのこ(10), セーボネス(10), スタディ(10), プレイ(10), シーランチ(10)
ライオン(10、重心5), ヨシア(10), ライラック(10)

・放課後等デイサービス(18箇所)

むぎのこ(10), プレイ(10), ヨシア(10), ライラック(10)、シーランチ(10), スカイブルー(10), ライオン(10)、ジャンプレッツ(10), チェリーブロッサム(10)、野の花(10)、グリーン(10)、トゥモロー(10)、ユスタバ(10)、ハイジ(10)、ピッピ(10)、スプリング(10)、UDL(10)

・日中一時支援 むぎのこ, ヨシア, スタディ, セーボネス

・むぎのこ保育園

・居宅介護事業所むぎのこ

・ショートステイホーム・ピース(12名)むぎのこ(8名)

・地域支援事業(障がい児等地域療育支援, 当別町専門支援)

・相談室セーボネス(地域相談支援事業所)

・むぎのこ子ども相談室(特定相談、障害児相談支援)

☆むぎのこ発達クリニック



1983(S57)年 設立
1996(H8)年 法人認可



むぎのこ(北36東8)



ジャンプレッツ(北35東28)

☆成人部門(1日利用者80名)

・障害者生活介護事業2003(H15)年開設
ジャンプレッツ(多機能) 生活介護事業(34名)
就労移行支援事業(6名)

・グループホーム10カ所 49名

・障害者生活介護事業
・スワン ハーベスト・ガーデン(20名)
・トリニティ 生活介護事業(20名)

☆社会的養護部門

・ファミリーホーム ガブリエル(6名)・ミモザ(6名)
・ベアテルホーム(6名)・グレープ(6名)
・障害児里親支援事業



児童発達支援に通園している人数(幼児)

2021年5月1日現在
合計:650名

1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	みかほ・重心クラス	計
4	18	52	39	74	52	236

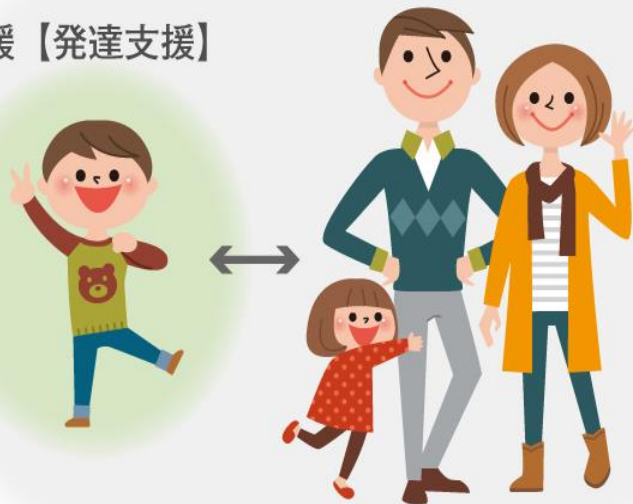
放課後等デイサービスに通園している人数(学童)

小1	小2	小3	小4	小5	小6	重心クラス
45	55	49	49	48	35	10
中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
25	15	15	15	10	10	390

児童発達支援センター

父母・きょうだい等への支援【家族支援】

子どもへの支援【発達支援】



コミュニティアプローチ【地域支援】



発達支援 適切に配慮された子育て

Developmental Support

-乳幼児期の発達支援-

すべての子どもに
必要な事

- ・乳幼児期は、養育者との愛着関係の形成が大切

- ・障がいのある子どもも同じ
 - 安心感信頼感の基礎 一生の土台—

- ・愛着形成に課題のある子どもも

- ・基本的な信頼感
 - 大人はいいことやってくれる人—
 - 生理的・感情的に一致—

- ・子育てを支える療育(宮田)

発達支援のインクルージョン

困り感のある 子どもと家族の集う 子育て支援センター

医療型・福祉型
児童発達支援センター

児童発達支援事業(8か所)
重症心身障害児(定員6名)

医療型児童発達支援センター



福祉型児童発達支援センター



幼児1日のスケジュール

時間	活動	内容
8:30	朝保育	外遊び、設定遊び ADL
10:00	うっつけ	社会スキル 挨拶
10:10	朝の会・リズム	場の構造化 手遊び、わらべ歌、絵本、音楽療法 運動、身体づくり、2点間
11:00	設定遊び・個別対応	運動、遊び、表現、数量、文字、協同性、自立 場の構造化、作業療法等
12:20	給食	ADL、食育、安心感
13:00	歯みがき	ADL、健康
13:30	午睡	生活リズムの構築、対人関係
14:30	帰る準備・帰りの会	ADL 手遊び、絵本
15:00	降園	
15:00～17:00	日中一時支援(延長保育)	外遊び、設定遊び



友達やお母さんとの楽しい日々の積み重ね



朝の会「絵本(大きなかぶ)」



毎日のリズム運動



お母さん、
家族を支える。



なぜ
家族支援が
大切なのか

子どもを救うためには、家族が救
われなければならない
(ネウボラ保健師の言葉)

お母さん の手記

つらかった。何度も死のうと思った。育てていかなければならないという思いと、この子がいなかったらという思いが交互に起きた。

夢であってほしい、朝目覚めたらお医者さんが来て何かの間違いだったと言ってくれるはずだ。

なんで私なのつらい。どうやって生きてけばいいの。生きていけない。でもかわいい。幸せ感じるはずだったのに。

私の人生も終わった。

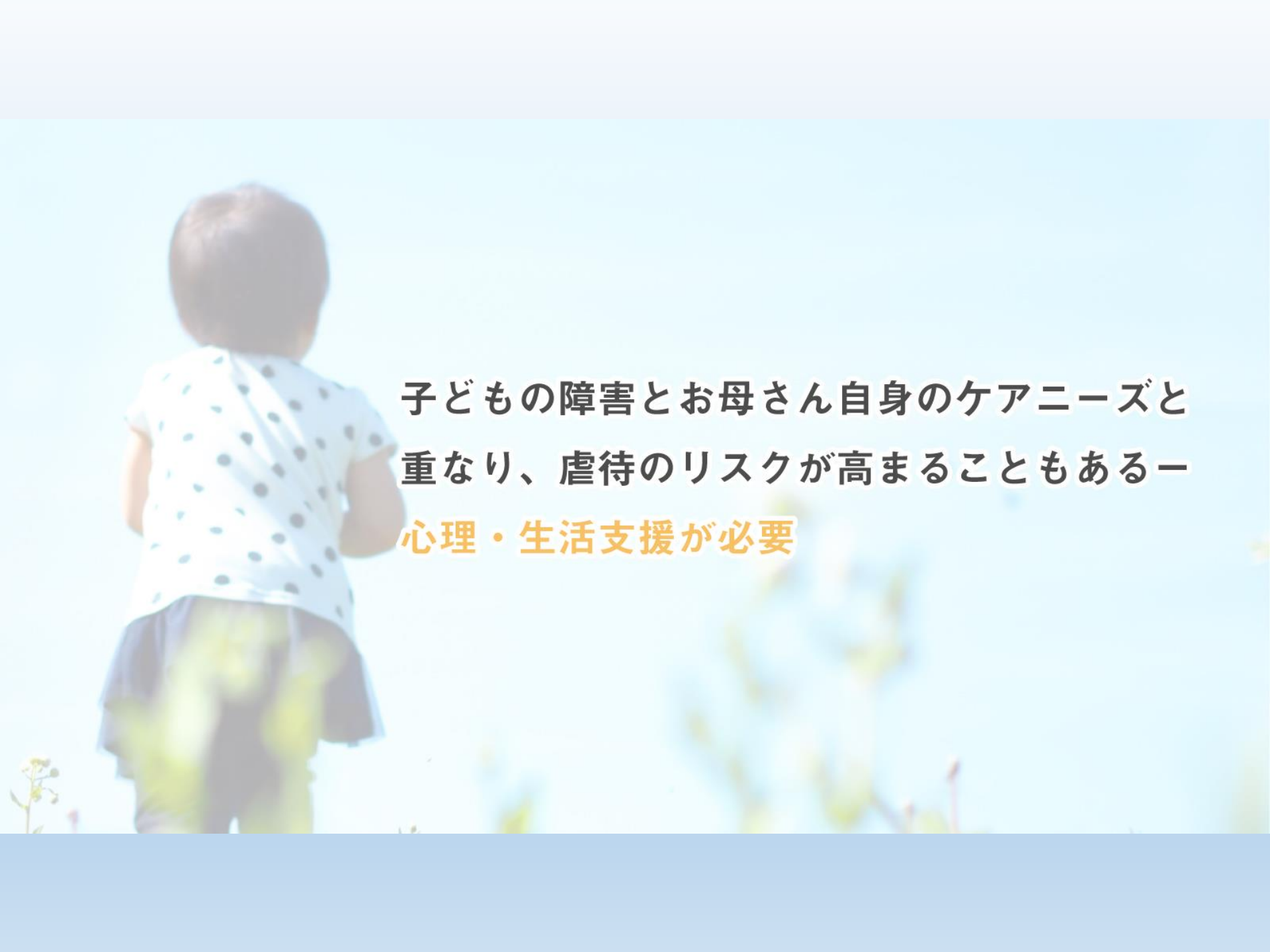
両親にも悲しい思いをさせてしまった。

障がいの気づきの段階での面接

「障害の段階説は、専門家が作ったもので親は、いつもいろんな感情が入りまじり、そんなに簡単にはいかない」

メーガン

慢性的悲哀ー終結することでない悲哀が内面に存在する



子どもの障害とお母さん自身のケアニーズと
重なり、虐待のリスクが高まることもある—
心理・生活支援が必要

心理支援、 グループ カウンセリング

- ・ グループカウンセリング
(幼児期週一回)
- ・ 個別カウンセリング
- ・ お母さんピアカウンセリング
- ・ 自助グループ
- ・ トラウマケア

どんな気持ちも大切な気持ち
悲しい時は、泣いていい。
嬉しい時は、喜んでいい。



むぎのこ発達 クリニック

障害児の親はすでに育児ストレスが高い状況にある



虐待に至りやすい被害的認知を高めないためには
「自尊感情を高める」ことが必要

当事者の力で、自己肯定感が高まる

- ・ 親（当事者）同士の対話の場所があること
- ・ 親自身が受容され、過去を含めた自分を受容すること
- ・ 自分の役割（仕事）を与えられること

障害児を虐待から守るためには
医療・福祉・教育の支援は必要であるが、
親の大きな心理変化に至るためには、
親（当事者）同士の力が重要。

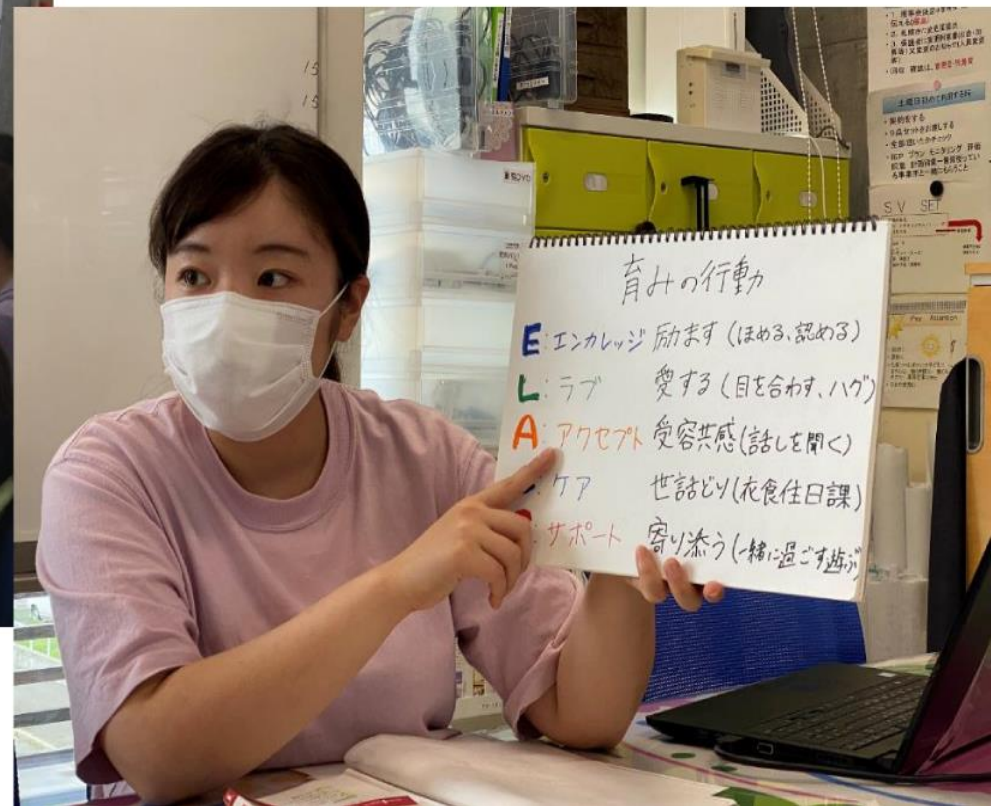
（木村直子先生・むぎのこ母を対象とした調査）

きょうだい支援とセラピー《家族》



ペアレントトレーニング

コンSENS・ペアレンティング ※ABA・アタッチメント理論



パパミーティング(月2回土曜日)



24時間緊急携帯

育児の

大変さを支える



【生活支援】

ホームヘルパー

(アウトリーチ)



【生活支援】

ショートステイ
ホームスウェーデン
からの学び



社会的養護の 必要な子の支援

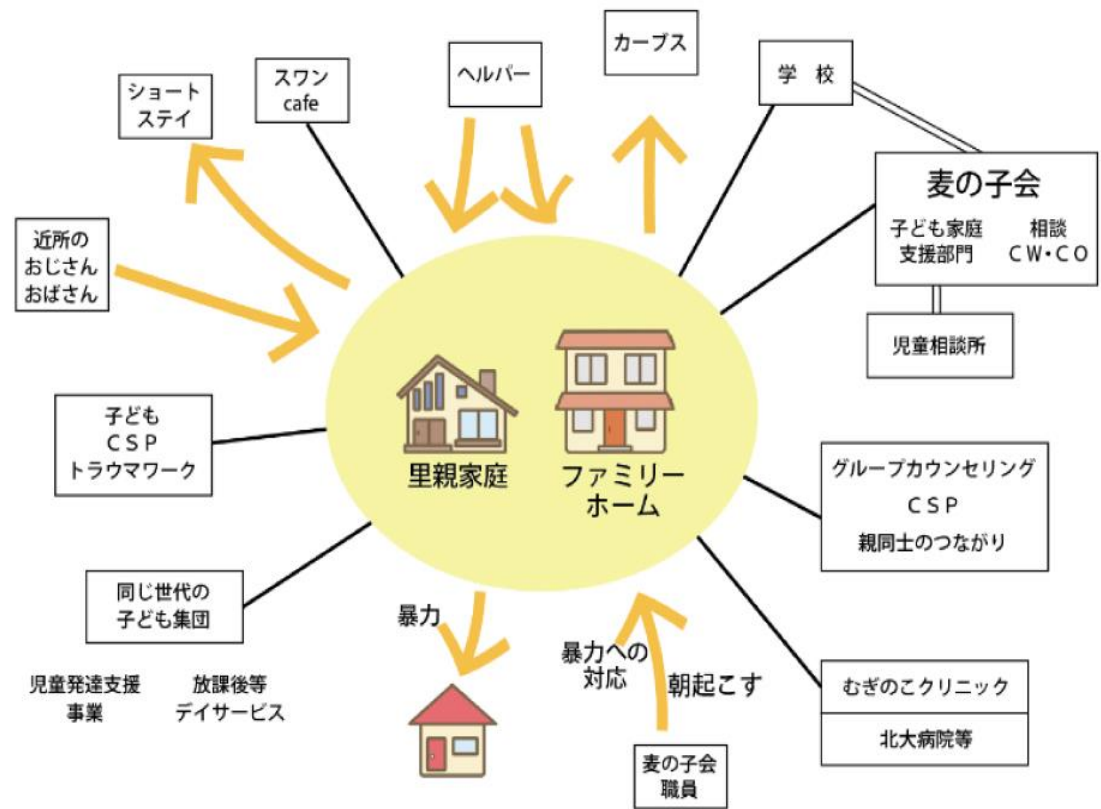
- ・里親ファミリーホーム（里親2組）
定員6名 × 2 = 12名
- ・里親21組、子ども39名
一時保護委託5名

乳幼児～高校生まで：ほとんどが発達に
心配のある子ども

- ・被虐待児 ・知的障害児
- ・自閉症児 ・発達障害児
- ・摂食障害 ・愛着障害
- ・施設で不適應の子ども等

地域住んでいるいろいろな
困り感のある子どもと家族と共に

里親さん ファミリーホーム への支援



障害のある子どもと里親さん



幼児期のインクルージョン



- ・子どものニーズに応じて
 - ・親のニーズ・願いに応じて
- 選択できる

トータルなアセスメント

専門的支援機能

発達支援
(インケア)

家族支援

地域支援

幼稚園

保育園

並行通園

地域療育等支援事業

保育所等訪問支援事業

児童発達
支援セン
ター等



むぎのこ児童発達支援センターの地域支援

インクルージョン

★ 保育所等訪問支援事業 10／件
(保育園2名・児童養護施設1名)

★ 地域療育等支援事業 196／件

2021年度

- ・札幌市の巡回相談の関係者連携会議(子ども部会)
- ・障害児里親等委託推進モデル事業(里親さんを支える)

地域の事業所を支える

★ 地域支援マネージャー
担当事業者数 東区80件 北区63件

保育所等訪問支援事業の実際(内容・流れ)

《支援者・ケース担当者・保護者》

《作成資料・支援視点及び支援内容》

(スケジュール例)

事前取り組み

前日までに実施
(担当事業所)
1～2週間

事前取り組み

契約

機関調整・調査(複数箇所)

アセスメント(総合評価)

訪問支援計画書作成

・調査

・アセスメント票

・訪問支援計画書

・支援ニーズの把握
・ケース特性の理解
・施設状況の把握
(支援ニーズ)
(療育方法等)

観察・直接支援

10:00～12:00
(主に教室内)

観察・直接支援

・行動観察(特徴の把握)
・直接支援
・療育環境の把握

・ケース特性の把握
・療育内容の把握
・直接支援

報告書作成

12:00～13:00
(施設別室・事業所)

報告書作成

・発達特徴の整理
・支援内容の整理・報告
・環境調整内容の整理・報告

・報告書

(行動観察記録)

(支援プログラム)

・支援計画の作成
(支援内容の整理)
・連携方針の検討

カンファレンス
間接支援

13:00～14:30
(施設会議室、教室)

カンファレンス・間接支援

・発達特徴の理解と確認
・支援内容の理解と確認
・環境調整の理解と確認

施設(保護者)
への報告

・事業日誌

・支援計画の共通理解
・支援内容の共通理解
・連携の確認
・保護者への報告₂

(1回支援:3～5時間)

思春期の支援－放課後等デイサービスの活動

大人への移行期 - 不安・葛藤

親離れへの挑戦

大人になるにあたっての
大切なことは、友達、
仲間の存在、第3の大人

成し遂げるよろこび
友達・大人に褒めて
もらうよろこび

孤立をふせぐ
仲間の存在
自尊心、
自己肯定感を育む

思春期の主な困り感

Problems and Difficulties Associated with Adolescence

朝起きれない・うつ・強迫

Unable to get up in the morning/Truancy

暴言・暴力・不登校

Violent language/ Physical Violence

学力不振・過剰適応・自殺企図

Decline in academic performance

自立のためのスキル 「料理」



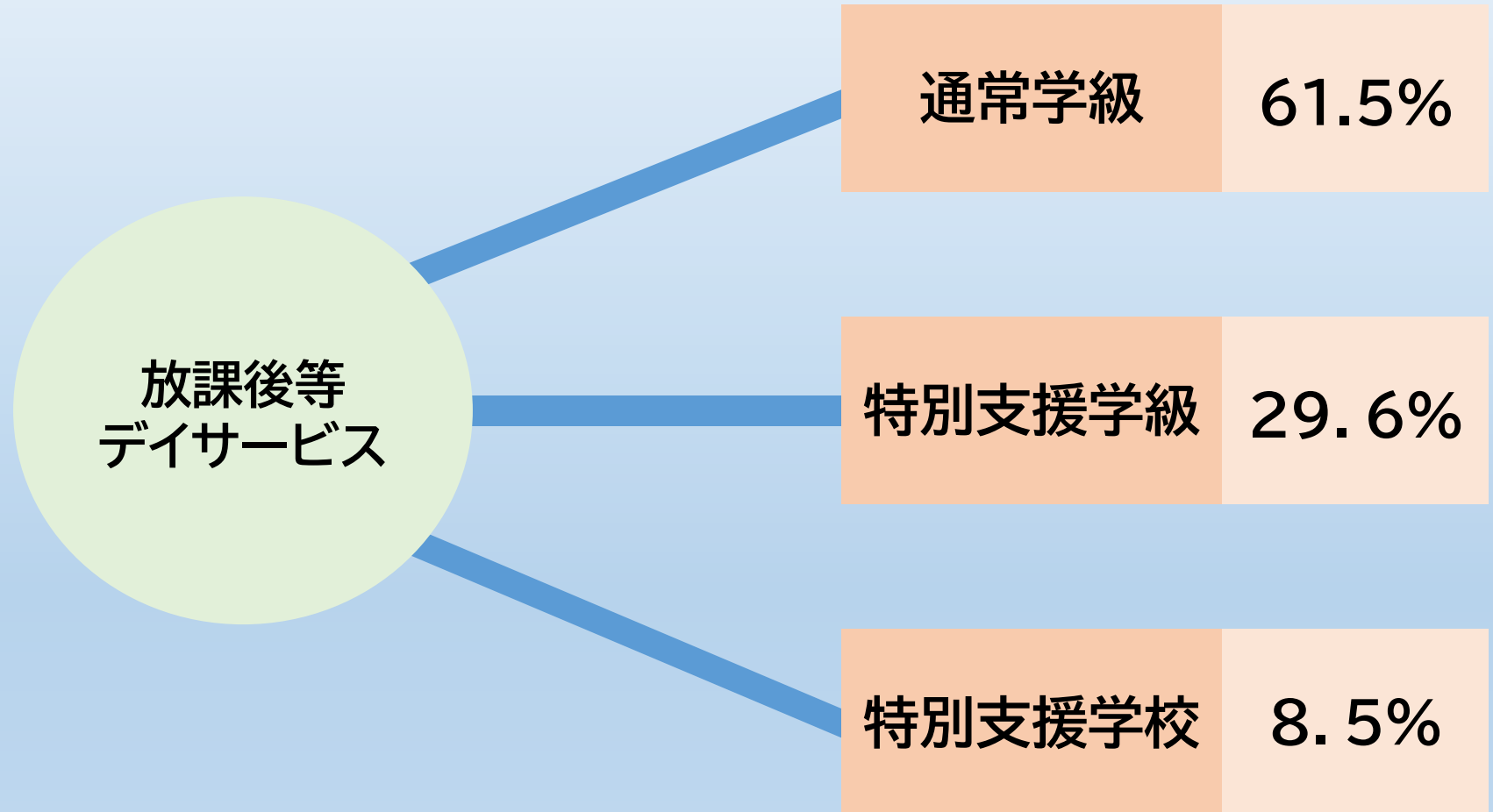
いろいろな経験



学校との連携



教育との連携



地域の小中学校との連携

★ 平成25年度インクルーシブ教育システム構築モデル事業の取り組みから

むぎのこ卒園児 146 人

小学校全生徒数 409 人

管 理 職 連 携

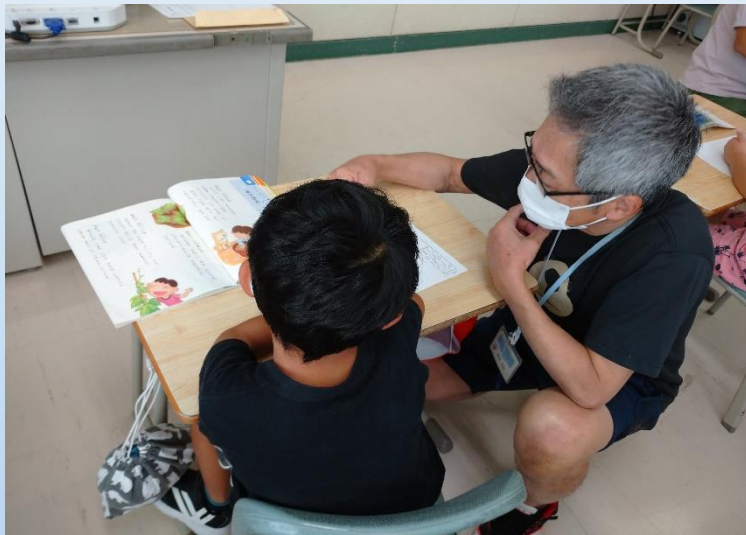
担任等ケース会議

IEPの連携・活用

- ・入学式・遠足・運動会・発表会・卒業式の事前打ち合わせ
- ・夏・冬休みの放デイへの見学と研修会

インクルーシブ教育の実際

授業中の様子



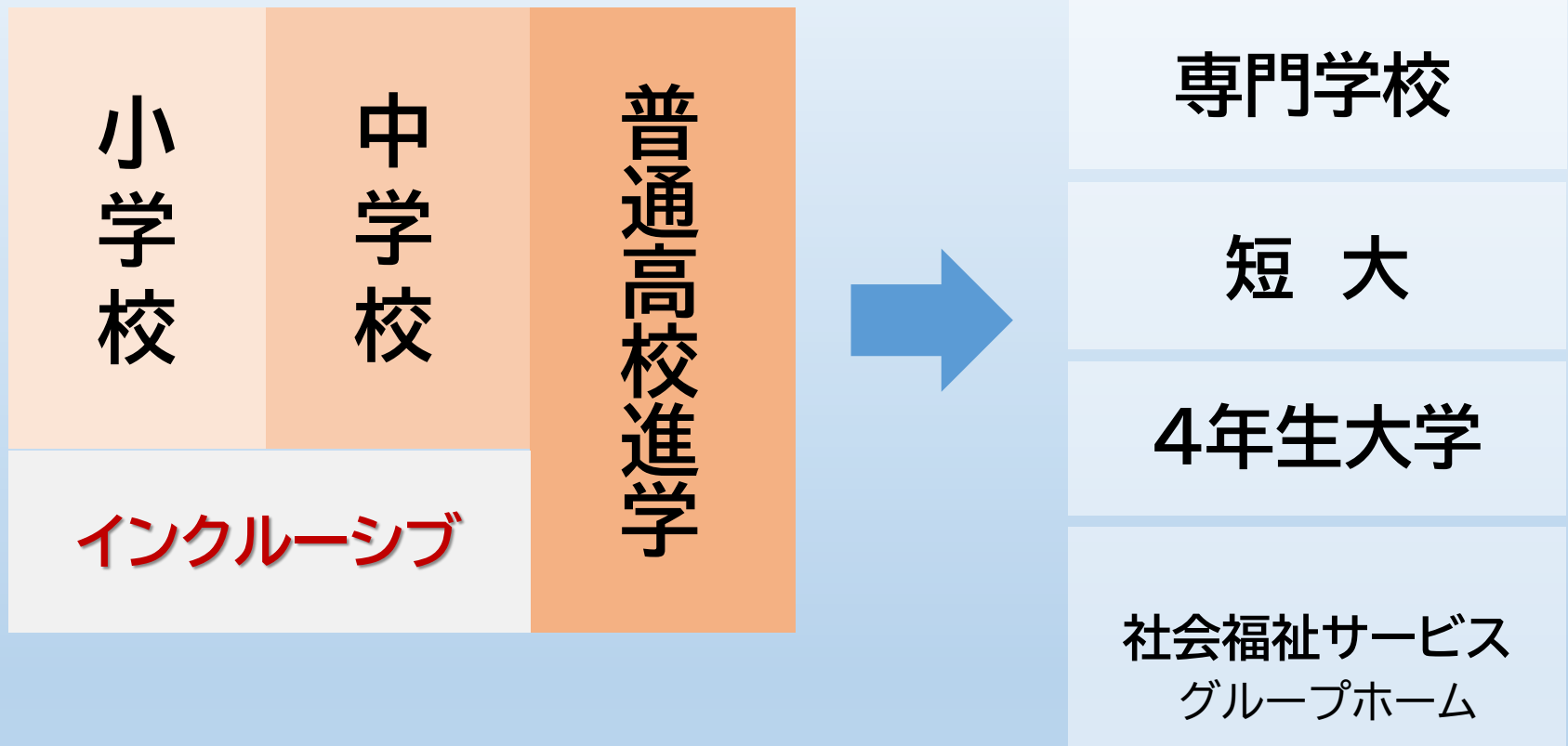
【 小中学校支援 】

放課後等デイの職員6名

9:00～12:00

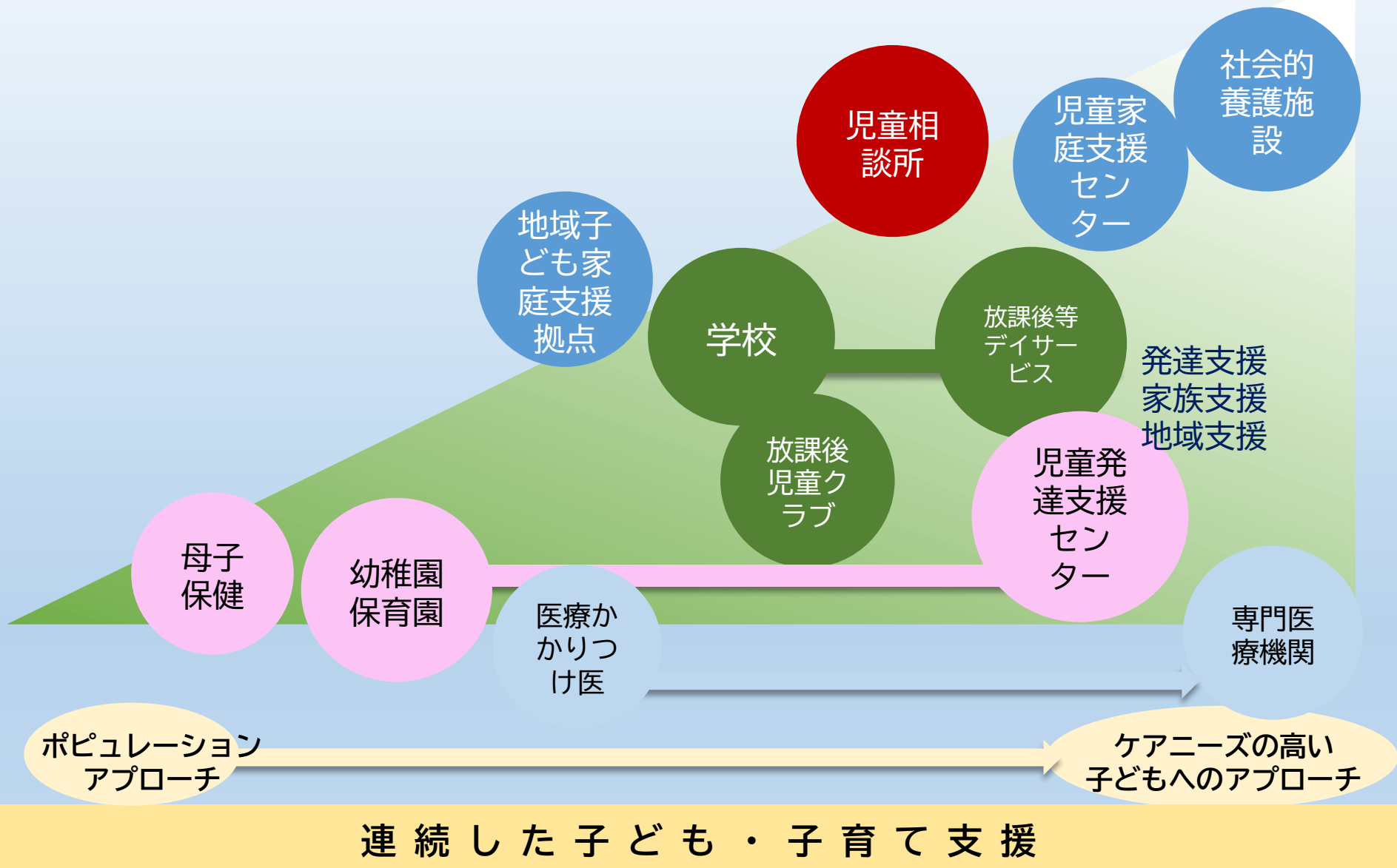
(元教員4名)

インクルーシブ教育の結果

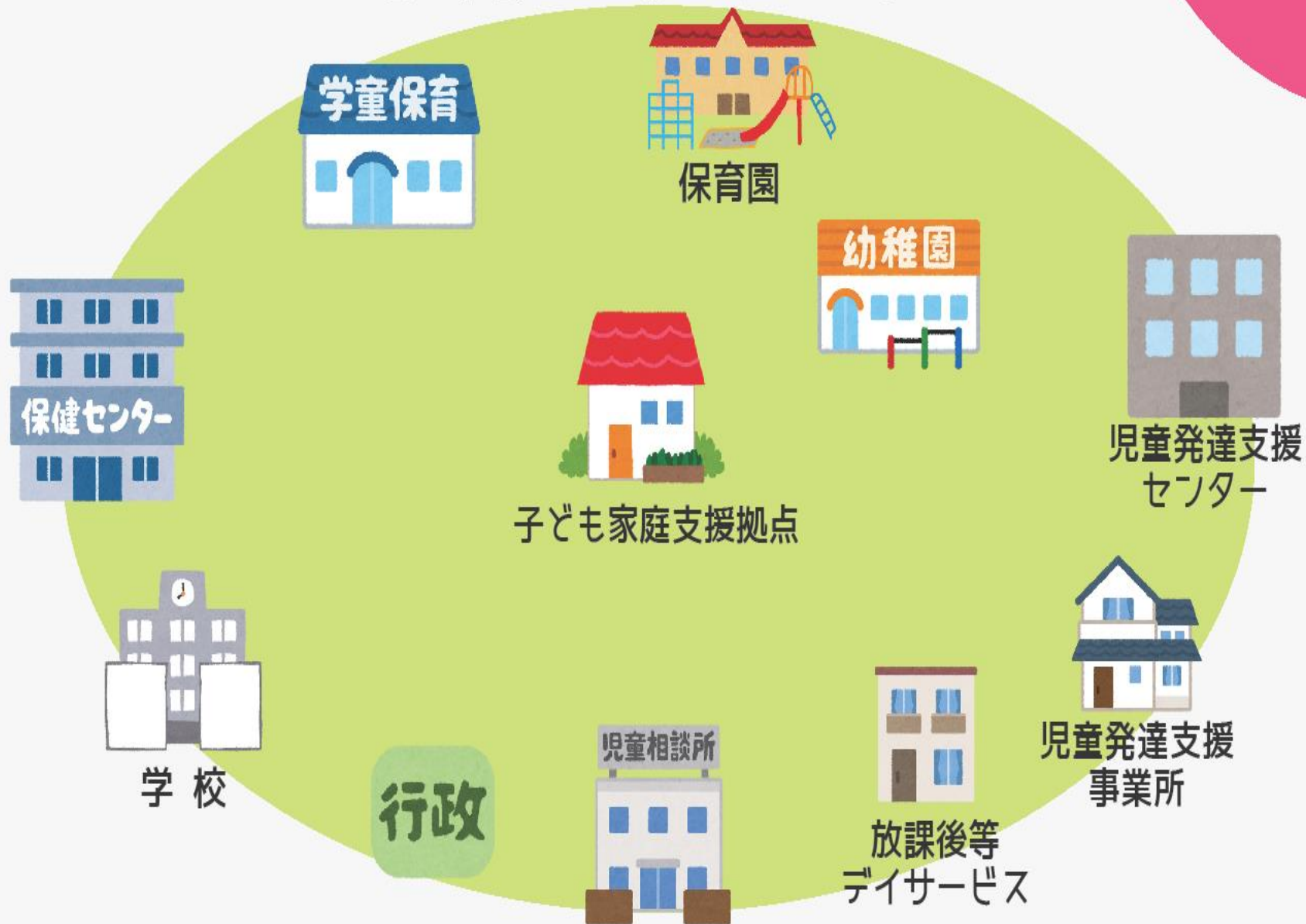


地域で自分らしく暮らすことにつながっている

社会が地域の全ての子どもと家族を温かくつつむ



子育てはみんなで



インクルージョン

ー 共に生きる社会を目指して ー

- 発達支援・保育のインクルージョン
- 家族支援のインクルージョン
- 教育のインクルージョン
- 子どもの権利のインクルージョン
- 制度のインクルージョン
- 政策のインクルージョン

インクルージョン

〔すべての子どもは社会の大切な子ども〕

障がいがある子どもも地域であたり前に
子どもとして大切にされていくこと



個別ニーズ、困り感、特性の合わせた配慮

北欧、北米に学んできたが、日本の中でどのようなあり方ができるのか、本人や家族の思いを大切にし、できるかぎり地域であたりまえに暮らすことをベースに課題を解決しながら、積み上げていく必要がある。

ご清聴ありがとうございました

